

主日礼拝

2022年10月23日
午前10時30分

前奏 「天と地の神よ」 (S.カーク・Iアート)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「わたしたちの助けは
天地を造られた主の御名にある。」 (詩編124:8)

頌栄 27 「父・子・聖霊」

ちち子せいのひとりの主よ、さかえとち
からはただ主にあれ、とこしえまで。
アーメン。

交読詩編 148:1~6

一 同：ハレルヤ。

司式者：天において

会衆：主を賛美せよ。

司式者：高い天で

会衆：主を賛美せよ。

司式者：御使いらよ、こそって

会衆：主を賛美せよ。

司式者：主の万軍よ、こそって

会衆：主を賛美せよ。

司式者：日よ、月よ

会衆：主を賛美せよ。

司式者：輝く星よ

会衆：主を賛美せよ。

司式者：天の天よ

天の上にある水よ

会衆：主を賛美せよ。

司式者：主の御名を賛美せよ。

会衆：主は命じられ、すべてのものは創造された。

司式者：主はそれらを世々限りなく立て

会衆：越ええない掟を与えられた。

祈祷

献金 ご用意のある方は、神さまへの感謝の気持ちをもってお届けください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあげめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。アーメン。

聖書 ヨブ記 38:1~18 旧約(新共同訳)P826~P827

- 1 主は嵐の中からヨブに答えて仰せになった。
- 2 これは何者か。
知識もないのに、言葉を重ねて
神の経緯を暗くするとは。
- 3 男らしく、腰に帯をせよ。
わたしはお前に尋ねる、わたしに答えてみよ。
- 4 わたしが大地を据えたとき
お前はどこにいたのか。
知っていたというなら
理解していることを言ってみよ。
- 5 誰がその広がりを選んだかを知っているのか。
誰がその上に測り縄を張ったのか。
- 6 基の柱はどこに沈められたのか。
誰が隅の親石を置いたのか。
- 7 そのとき、夜明けの星はこそって喜び歌い
神の子らは皆、喜びの声をあげた。
- 8 海は二つの扉を押し開いてほとばしり
母の胎から溢れ出た。
- 9 わたしは密雲をその着物とし
濃霧をその産着としてまとわせた。
- 10 しかし、わたしはそれに限界を定め
二つの扉にかんぬきを付け
- 11 「ここまでは来てもよいが越えてはならない。
高ぶる波をここでとどめよ」と命じた。
- 12 お前は一生に一度でも朝に命令し
曙に役割を指示したことがあるか
- 13 大地の縁をつかんで
神に逆らう者どもを地上から払い落とせと。

- 14 大地は粘土に型を押していくように姿を変え
すべては装われて現れる。
- 15 しかし、悪者どもにはその光も拒まれ
振り上げた腕は折られる。
- 16 お前は海の湧き出るところまで行き着き
深淵の底を行き巡ったことがあるか。
- 17 死の門がお前に姿を見せ
死の闇の門を見たことがあるか。
- 18 お前はまた、大地の広がり
隅々まで調べたことがあるか。
そのすべてを知っているなら言ってみよ。

賛美 58 「み言葉をください」

詞：今野泰成、1926-

曲：小山幸三、1930-
MIKOTOBA

1 みことばをください、ふりそそぐあめ
2 みことばをください、ふくかぜのよう
3 みことばをください、くさにおくつゆ

のよう、めぐみの主よ。
に、つよ、すくいの主よ。
のよう、いのちの主よ。

うえとかわきに あえぎくるしみ、
からみつくつみ ねこそぎされ、
ひととひととの ころかよわず、

やみじさすらう いのちのため。
いのちあらたに めばえるため。
みだれあらそう せかいのため。

- 1 み言葉をください、
降りそそぐ雨のように、
恵みの主よ。
飢えと渇きに あえぎくるしみ、
やみじさすらう
いのちのために。
- 3 み言葉をください、
草におく露のように、
いのちの主よ。
人と人との ころかよわず、
乱れあらそう
世界のために。
- 2 み言葉をください、
吹く風のように強く、
救いの主よ。
からみつく罪 根こそぎされて、
いのちあらたに
芽生えるために。

説教「創造主なる神」

賛美 423(1,3,5) 「人がこの世界に」

Zolang er mensen zijn op aarde
詞：Huub Oosterhuis, 1933-

MAREZ OYENS
曲：Tera de Marez Oyens-Wansink, 1932-

① ひとが このせか いに 生きてあるかぎり、
② へいわの みことばを、 生かたあうかぎり、
③ とりたちを やしなる、主、 はなで野をかぎり、
④ いのちを あたえる、主、 子を世におくり、
⑤ 主の あいに 生かさ、れ、 た だ 主を しんじよう。

この世がつづくかぎり、主にかんしゃしよう。
主はその場におられる、たまえよう、み名を。
主はなやみをとる、まもられ、きようも。
この世を死からすくう、ひかりのわが主よ。
われらをとつにす、主こそいのちのパン。

- ① 人がこの世界に 生きてあるかぎり、
この世が続くかぎり、
主に感謝しよう。
- 2 平和のみことばを 語りあうかぎり、
主は その場におられる、
たたえよう、み名を。
- ③ 鳥たちをやしない、花で野をかざり、
主は惱みを取り去り、
守られる、今日も。
- 4 いのちを与える主、み子を世におくり
この世を死から救う。
光のわが主よ。
- ⑤ 主の愛に生かされ、ただ主を信じよう。
われらをつにする
主こそいのちのパン。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝禱

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「私の喜び 私の力」 (L.ピ ッキ)

司式 福原 之織
説教 向井 希夫牧師
奏楽 大代 恵

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。
※賛美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。